

リニアを通した長野・南木曾とは？

へっちゃんらネット 取材

リニア新幹線は、2027年開業予定とされています。当面、東京・名古屋間を建設し、その後大阪方面まで延ばす予定だとのこと。そのリニア新幹線、現在はどうなっているのでしょうか？

長野県にある南木曾町には、中山道の宿場町であった「妻籠宿」目当てに多くの観光客が訪れます。実は、その妻籠宿の水源あたりをリニア新幹線がトンネルを掘って通るようなのです。その影響（残土の運搬・置き場、そして水源枯渇）が心配されます。

町主導でリニア対策協議会ができ、何度も話し合いの場が設けられていますが、その協議会に女性として唯一参加している松瀬康子さんでも、最近の様子はよくわからないと答えています——（以下、インタビュー内容）

——JR側も当然臨席しているが、町民に対し、話し合うというよりは納得させようとする態度で、1対1の対応にもっていき、ディスカッションになっていない、協議という形にはなっていない。JR担当者の態度も煮え切らないものがある。山口工区(南木曾工区に繋がる工区)の工事でも、事後報告のように、いかにも決まったような話をした。その件について質問すると、JR側は、「工事が始まったことを理解していただいていると希望する」というような言い方をしたが、説明にはなっておらずおかしいと思った。情報の共有がなされていないと感じる。この南木曾リニア対策協議会自体も、建設が明らかになった時、地元を通るということで、町の人々の不安な声を受け作られたという経緯がある。しかし、全般的にみると、当事者でありながらも他人事のように思っている人が多いと感じる。自分としては危機感を感じどうしたものかと思案している。

協議会を傍聴している新聞社も、協議会の内容をきちんと報道していない。その他の意見を求められた時、「傍観している記者の皆さんにお願いがあります、内容を歪めないように書いてください」そう言ってみたら、その後は信濃毎日新聞だけは正確に書いてくれるようになった。

そんな中、有志で勉強会が始まり、寺の住職や大学の先生・議員等がメンバーとなって、もちろん私のような一般市民で毎月行っている。ただ専門的になってきているので、個人で初級編の勉強会を開催してみたいと感じているところです。

リニア対策協議会も足かけ5年経っている。できれば、そうした会を来年早々にも第1回目を開きたい。当面は、地元の妻籠の人々を誘い、そして、リニア推進側の人にも声をかけていきたい。「プレミアムQ&A 総点検・リニア新幹線」という本があるので、それを使っていきたい。

また、山梨の試験沿線では、水涸れや日照の問題が起きていて、そういった話も聞いているが、JR側の人からは、それは訴訟になっていないので、問題ありますか？と言われた。東京では、リニア訴訟の裁判が開かれていて、応援しているようだ。中津は、もうどんどん事業開発が進んでいて、チコリ村社長も土地買収を図り、推進側のような。が、中津と南木曾は状況が違う。中津は、坂下病院ま

で閉めようとして、開発のためのお金を用意している。また、大鹿村の取り付け道路、知らないうちに決まってきた。念願の道であったのだが、南木曾町の対岸道路建設も進んでいる。そういったものは、予算取りのタイミングなのか？ どういうやりとりをしているのか？ よくわからない。建設予算の9兆円、どんどん負担が増えているが、どうするのでしょうか？ 誰が負担するのか？ そのどこに正義があるのでしょうか？

妻籠の水が枯渇した場合、関電はどうなのか？ ダムがあるのに。が、何も言っていない。他のところでも発電しているので、電気が売れるところが増えればいいのか？ 最終的には、工事をすることに意義があるのか？ 一般市民の負担だけ増えるだけではないのか？ ——

そういったこと、リニア建設の問題を投げかけてみて、これまで出会ってない人を探していき、そういう人をつなげていく、そして考えていく力をつけていきたい、と語られました。松瀬さんが始め今も関わっている「里山つまごえん」の場合、誰がリーダーなのかわからなく、みんながしてくれる状態で、自分は真剣に考えるだけで済んでいる、私は「器を作るのみ」という状況になって来ているそうです。人をお願いするだけでなく自分でも物事を考える人を増やしていきたい、と話されました。

(取材：「へっちゃんらネット」滝 栄一、伊藤幸慶)



南木曾町内の妻籠宿



松浦康子さんのお店「康」

「へっちゃんらネット」とは・・・

名古屋 NGO センター関係者で、5年ほど前、TPP問題を自分たちの問題として考えていこう！という有志が集まって勉強会を開いたのが始まり。その後、政府との意見交換会など、TPPやグローバル化の問題、そこにどうしても関わらざるをえない地域の問題、流域自立構想など、地道に気長にジャーナリ的な視点を持ちながら取り組みをしています！